

# 新規採用教員の研修に関する意識調査の分析結果 について

## －教師力を高める採用2年目以降の研修内容の検討－

研究指導主事 嶋田 恵司

Shimada Keiji

研究指導主事 嶋岡 浩三

Shimaoka Kozo

研究指導主事 西 英樹

Nishi Hideki

研究指導主事 山内 雅雄

Yamauchi Masao

### 要 旨

本研究は、昨年度の「若手教員が必要とする教師力に関する一考察」の継続研究である。新規採用教員（以下「初任者」という。）305名に意識調査を実施し、多変量解析を行なった。その結果、初任者が2年目以降に学びたい内容は、「児童・生徒理解力」、「様々な事例研究」、「保護者や地域との連携」、「教科指導力」、「コミュニケーション能力」の5因子からなることが分かった。また、校種ごとの初任者の学びに対する意識の特徴が明らかになった。

キーワード： 教師力を高める、初任者の学びに対する意識の特徴、2年目教員

## 1 はじめに

学校教育は、従来の「知識偏重」型教育から脱却し、思考力や判断力、主体性を重視する方向に転換が図られるとともに、学校現場では、ベテラン教員が大量退職し、それに伴い、若手教員の占める割合が高まっている。また、高度情報化に伴うボーダレス社会の到来とともに、少子高齢化などの急激な社会構造の変化が進んでいる。こうした状況に対応するには、教員は、学び続けることが必要である。

平成元年度から本格実施されている初任者研修は、初任者に対して、教育公務員特例法第23条及び附則第4条の規定に基づき、現職研修の一環として、1年間の研修を実施し、実践的指導力と使命感を養うとともに幅広い知見を得させることを目的としている。そのうち、校外研修を、県立教育研究所（以下「研究所」という。）において実施している。今後も若手教員は年々増加していくことから、採用2年目以降の教員を対象にした研修内容の一層の充実を図ることが、研究所の喫緊の課題となっている。

こうした点を踏まえ、研究所では平成25年度に、「若手教員が必要とする教師力に関する一考察－新規採用教員の意識調査から－」の研究を行った（山内ら、2014）。その中の意識調査の結果から、「児童・生徒理解力」、「教科指導力」、「コミュニケーション能力」の3つの要素

が、初任者にとって必要な教師力であることが示唆された。そこで、本研究では、初任者が、こうした教師力を高めていく上で、今後、研究所の研修講座でどのような内容を学びたいと考えているのかを調査し、分析することとした。

## 2 研究目的

本研究は、先行研究で明らかとなった教師力である「児童・生徒理解力」、「教科指導力」、「コミュニケーション能力」（以下「教師力」という。）を高めるため、初任者が、今後、研修講座で学びたいと考えている研修内容を明らかにし、平成27年度以降の研究所の研修講座を検討する際の資料とする。具体的には、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の初任者研修を受講する教員に対して、意識調査（図1参照）を行い、分析することで、初任者が学びたいと考えている具体的な研修カテゴリーを量的に明らかにする。更に、初任者が抱えている課題について、自由記述された質的データを分析し、今後、2年目以降の研修内容として、どのような内容を学びたいと考えているのかを明らかにする。

## 3 研究方法

- (1) 若手教員の育成に関する先行研究の調査及び意識調査の質問紙の開発
- (2) 初任者を対象とした意識調査の実施
- (3) 調査結果の基本統計量を算出し、多変量解析により初任者の学びの特徴を明らかにする。
- (4) 自由記述部分から、初任者が、悩んでいることや困っていることを明らかにする。

| このアンケートは、教育研究所における次年度以降の若手教員研修講座の企画・運営の参考にすることを目的として行います。すべての質問項目に記入漏れのないように御記入ください。皆さんの御協力をお願いします。各質問に対して、<br>「1 全くそう思わない、2 そう思わない、3 どちらでもない、4 そう思う、5 とてもそう思う」<br>の5段階で評価してください。得られた情報は目的外には使用しません。<br>実施日 平成26年12月24・26日 |                                   |        |        |        |       |   |
|--|-----------------------------------|--------|--------|--------|-------|---|
| A: 校種に○印をつけてください。  | 小学校                               | 中学校    | 高校     | 特別支援学校 |       |   |
| B: 該当する年齢欄に○印をつけてください。   | 22～23歳                            | 24～25歳 | 26～27歳 | 28～29歳 | 30歳以上 |   |
| C: 該当する講師経験年数に○印をつけてください。  | なし                                | 1年未満   | 1年～2年  | 3年～5年  | 6年以上  |   |
| D: 今年度、担任をしていますか、○印をつけてください。   | 1 いいえ                             | 2 はい   |        |        |       |   |
| E: 性別に○印をつけてください。  | 1 女性                              | 2 男性   |        |        |       |   |
| 1 あなたの「教師力」(教師として必要な力)についておたずねします。   |                                   |        |        |        |       |   |
| (1) 現在、「児童生徒理解」について、悩んでいることや困っていることがあれば、記述してください。  |                                   |        |        |        |       |   |
| (2) 現在、「教科指導」について、悩んでいることや困っていることがあれば、記述してください。  |                                   |        |        |        |       |   |
| (3) 現在、「コミュニケーション(対児童生徒、対保護者、対同僚)」について、悩んでいることや困っていることがあれば、記述してください。   |                                   |        |        |        |       |   |
| 2 あなたの「教師力」を高めるために、今後、研修講座で、次の内容について学びたいですか。   |                                   |        |        |        |       |   |
| 1  | メタ認知(目標や振り返り等)を重視した授業づくり          | 1      | 2      | 3      | 4     | 5 |
| 2  | L I N E等のネット依存、ゲーム依存等への対応         | 1      | 2      | 3      | 4     | 5 |
| 3  | 教科に関する専門的知識・技術                    | 1      | 2      | 3      | 4     | 5 |
| 4  | 保護者との信頼関係づくり                      | 1      | 2      | 3      | 4     | 5 |
| 5  | 児童生徒虐待の早期発見・早期対応につながる教員の態度と対応の在り方 | 1      | 2      | 3      | 4     | 5 |
| 6  | 人権教育の具体的な進め方                      | 1      | 2      | 3      | 4     | 5 |
| 7  | 職場での協働の進め方                        | 1      | 2      | 3      | 4     | 5 |
| 8  | 不登校児童生徒への理解と対応の在り方                | 1      | 2      | 3      | 4     | 5 |
| 9  | 教科における実践的な指導力                     | 1      | 2      | 3      | 4     | 5 |
| 10   | 家庭や地域との連携・協力の在り方                  | 1      | 2      | 3      | 4     | 5 |
| 11   | 学級・ホームルームのリーダー育成のための取組            | 1      | 2      | 3      | 4     | 5 |
| 12   | 児童生徒の行動等生徒指導上の諸問題への対応             | 1      | 2      | 3      | 4     | 5 |
| 13   | 総合的な学習の時間の進め方                     | 1      | 2      | 3      | 4     | 5 |
| 14   | 保護者への対応の在り方                       | 1      | 2      | 3      | 4     | 5 |
| 15   | 言語活動を重視した授業づくり                    | 1      | 2      | 3      | 4     | 5 |
| 16   | 児童生徒との好ましい人間関係づくり                 | 1      | 2      | 3      | 4     | 5 |
| 17   | 児童生徒の自尊感・自己肯定感を高めるための取組           | 1      | 2      | 3      | 4     | 5 |
| 18   | 教育相談のケーススタディ(事例研究)                | 1      | 2      | 3      | 4     | 5 |
| 19   | 教員のコミュニケーション能力向上の方法               | 1      | 2      | 3      | 4     | 5 |
| 20   | キャリア教育の具体的な進め方                    | 1      | 2      | 3      | 4     | 5 |
| 21   | 特別な支援を必要とする児童生徒のケーススタディ(事例研究)     | 1      | 2      | 3      | 4     | 5 |
| 22   | I C T機器を用いた授業の進め方                 | 1      | 2      | 3      | 4     | 5 |
| 23   | 生徒指導のケーススタディ(事例研究)                | 1      | 2      | 3      | 4     | 5 |
| 24   | 授業構想・授業展開の工夫                      | 1      | 2      | 3      | 4     | 5 |
| 25   | 生徒指導を生かした教育活動の在り方                 | 1      | 2      | 3      | 4     | 5 |
| 26   | 児童生徒のコミュニケーション能力向上のための取組          | 1      | 2      | 3      | 4     | 5 |
| 27   | 学級・ホームルーム集団の仲間意識を育てる取組            | 1      | 2      | 3      | 4     | 5 |
| 28   | 学習意欲を高める授業づくり                     | 1      | 2      | 3      | 4     | 5 |
| 29   | いじめの早期発見・早期対応につながる教師の態度と対応の在り方    | 1      | 2      | 3      | 4     | 5 |
| 30   | 児童生徒とのコミュニケーションによる内面理解の方法         | 1      | 2      | 3      | 4     | 5 |

御協力ありがとうございました。(記入漏れがないか、もう一度御確認をお願いします。)

図1 意識調査の質問紙

## 4 研究内容

### (1) 先行研究から

「初任者研修対象教員に対する意識調査に関する一考察」（和歌山県教育センター学びの丘、2007）の報告によると、初任者にこの1年間で悩んだことや辛かったことの有無を尋ねたところ、約85%の初任者が「有」と回答している。さらに、その内容でもっとも多かったのが、「教科指導」であり、ついで、「同僚との関係」、「保護者との関係」、「学級経営等」が挙げられている。また、「若手教員が必要とする教師力に関する一考察－新規採用教員の意識調査から－」（山内ら、2014）の報告においても、この1年間で困ったことや悩んだことについては、全校種において、「教科指導」、「児童・生徒との関係」、「学級経営等」が上位項目に挙げられている。

こうした点を踏まえると、初任者の教師力の向上には、各学校において、校内研修の活性化を目指すこととともに、初任者の2年目以降の研修内容を充実させることが大切であるといえる。

### (2) 意識調査の実施

#### ア 目的

初任者の教師力に関する現状の悩みを調べるとともに、学びたいと考えている内容を集約し、その特徴を明らかにすることで、採用2年目以降の研修内容の企画に役立てていく。

#### イ 実施日

【小学校】 平成26年12月24日（水）

【中学校、高等学校、特別支援学校】 平成26年12月26日（金）

#### ウ 対象者

平成26年度に研究所が実施した初任者研修講座を受講した者のうち、小学校141名、中学校79名、高等学校52名、特別支援学校33名の合計305人を対象に意識調査を実施した（表1参照）。そのうち、無回答及び欠損値のあるデータを分析対象から除外した結果、全校種の有効回答者数は297人（有効回答率97%）であった。有効回答者の校種別内訳は表2のとおりである。

表1 調査対象者の講師経験及び学級担任状況

| 校種      | 小学校      | 中学校     | 高等学校    | 特別支援学校  | 合計       |
|---------|----------|---------|---------|---------|----------|
| 講師経験あり  | 62 (44)  | 43 (54) | 25 (48) | 25 (76) | 155 (51) |
| 講師経験なし  | 79 (56)  | 36 (46) | 27 (52) | 8 (24)  | 150 (49) |
| 学級担任である | 127 (90) | 34 (43) | 10 (19) | 2 (6)   | 173 (57) |
| 学級担任でない | 14 (10)  | 45 (57) | 42 (81) | 31 (94) | 132 (43) |

単位は人、（ ）は%

表2 有効回答者の校種別内訳（無回答及び欠損値を除く実数）

| 校種     | 小学校      | 中学校     | 高等学校    | 特別支援学校  | 合計        |
|--------|----------|---------|---------|---------|-----------|
| 有効回答者数 | 135 (46) | 78 (26) | 51 (17) | 33 (11) | 297 (100) |

単位は人、（ ）は%

#### エ 調査方法

初任者が2年目以降に学びたいと考えている内容を調査し、それを次年度以降の研究所の研修講座の内容に反映させていくために、質問紙を作成した（図1参照）。質問紙には、教師力について悩んでいることや困っていることを自由記述する項目を設けるとともに、今後、初任者が、

教師力を高めるために必要と考えられる30項目を設定し、次年度以降の研修講座で、その内容について学びたいと考える意識の高低を5件法により回答してもらった。なお、質問紙は、初任者研修に携わる研究指導主事が協議をして作成した。様式はA3版2つ折りとし、その内側に基本事項の記入欄及び質問内容と回答欄を配し、個人情報の保護に配慮した。調査は無記名で行うこととし、調査実施前に、本調査の目的とともに個人が特定されないことを周知した。

## 5 研究結果と考察

### (1) 調査の集計結果

まず、初任者の学びの意識尺度30項目について、「全くそう思わない」を1点、「そう思わない」を2点、「どちらでもない」を3点、「そう思う」を4点、「とてもそう思う」を5点とし、各質問項目の平均値と標準偏差を算出し、得点分布を確認したところ、質問3及び質問9の2項目で、天井効果と考えられる得点分布の偏りが見られた。しかし、得点分布の偏りが見られた項目の内容を吟味したところ、いずれの質問項目についても学びの意識という概念を測定する上で不可欠なものであると考えられた。そこで、ここでは項目を除外せず、すべての質問項目を以降の分析対象とした。その結果を次に示す。

表3 小学校受講者の意識調査結果 (n=135)

| 順位 | 質問<br>番号 | あなたの「教師力」を高めるために、今後、研修講座で、<br>次の内容について学びたいですか。 | 平均値   | 標準偏差  |
|----|----------|--|-------|-------|
| 1  | 9        | 教科における実践的な指導力                                  | 4.704 | 0.547 |
| 2  | 3        | 教科に関する専門的知識・技術                                 | 4.667 | 0.573 |
| 3  | 28       | 学習意欲を高める授業づくり                                  | 4.593 | 0.626 |
| 4  | 27       | 学級・ホームルーム集団の仲間意識を育てる取組                         | 4.526 | 0.644 |
| 5  | 24       | 授業構想・授業展開の工夫                                   | 4.504 | 0.700 |
| 6  | 17       | 児童生徒の自尊感情・自己肯定感を高めるための取組                       | 4.393 | 0.681 |
| 7  | 15       | 言語活動を重視した授業づくり                                 | 4.370 | 0.699 |
| 8  | 12       | 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題への対応                        | 4.304 | 0.715 |
| 9  | 26       | 児童生徒のコミュニケーション能力向上のための取組                       | 4.304 | 0.661 |
| 10 | 11       | 学級・ホームルームのリーダー育成のための取組                         | 4.274 | 0.777 |
| 11 | 29       | いじめの早期発見・早期対応につながる教師の態度と対応の在り方                 | 4.267 | 0.745 |
| 12 | 30       | 児童生徒とのコミュニケーションによる内面理解の方法                      | 4.267 | 0.735 |
| 13 | 21       | 特別な支援を必要とする児童生徒のケーススタディ                        | 4.259 | 0.801 |
| 14 | 8        | 不登校児童生徒への理解と対応の在り方                             | 4.207 | 0.734 |
| 15 | 13       | 総合的な学習の時間の進め方                                  | 4.200 | 0.790 |
| 16 | 4        | 保護者との信頼関係づくり                                   | 4.178 | 0.905 |
| 17 | 22       | I C T機器を用いた授業の進め方                              | 4.156 | 0.888 |
| 18 | 5        | 児童生徒虐待の早期発見・早期対応につながる教員の態度と対応の在り方              | 4.119 | 0.838 |
| 19 | 25       | 生徒指導を生かした教育活動の在り方                              | 4.119 | 0.658 |
| 20 | 14       | 保護者への対応の在り方                                    | 4.104 | 0.822 |
| 21 | 6        | 人権教育の具体的な進め方                                   | 4.089 | 0.787 |
| 22 | 16       | 児童生徒との好ましい人間関係づくり                              | 4.067 | 0.883 |
| 23 | 1        | メタ認知（目標や振り返り等）を重視した授業づくり                       | 4.037 | 0.767 |
| 24 | 23       | 生徒指導のケーススタディ（事例研究）                             | 4.037 | 0.850 |
| 25 | 10       | 家庭や地域との連携・協力の在り方                               | 4.015 | 0.753 |
| 26 | 18       | 教育相談のケーススタディ（事例研究）                             | 3.867 | 0.799 |
| 27 | 19       | 教員のコミュニケーション能力向上の方法                            | 3.822 | 0.945 |

|    |    |                           |       |       |
|----|----|---------------------------|-------|-------|
| 28 | 2  | L I N E等のネット依存、ゲーム依存等への対応 | 3.741 | 0.969 |
| 29 | 20 | キャリア教育の具体的な進め方            | 3.719 | 0.861 |
| 30 | 7  | 職場での協働の進め方                | 3.593 | 0.883 |

表4 中学校受講者の意識調査結果 (n=78)

| 順位 | 質問<br>番号 | あなたの「教師力」を高めるために、今後、研修講座で、<br>次の内容について学びたいですか。 | 平均値   | 標準偏差  |
|----|----------|--|-------|-------|
| 1  | 9        | 教科における実践的な指導力                                  | 4.692 | 0.631 |
| 2  | 3        | 教科に関する専門的知識・技術                                 | 4.667 | 0.596 |
| 3  | 28       | 学習意欲を高める授業づくり                                  | 4.526 | 0.639 |
| 4  | 24       | 授業構想・授業展開の工夫                                   | 4.449 | 0.658 |
| 5  | 27       | 学級・ホームルーム集団の仲間意識を育てる取組                         | 4.359 | 0.720 |
| 6  | 8        | 不登校児童生徒への理解と対応の在り方                             | 4.333 | 0.715 |
| 7  | 29       | いじめの早期発見・早期対応につながる教師の態度と対<br>応の在り方             | 4.295 | 0.705 |
| 8  | 4        | 保護者との信頼関係づくり                                   | 4.256 | 0.692 |
| 9  | 23       | 生徒指導のケーススタディ（事例研究）                             | 4.244 | 0.871 |
| 10 | 26       | 児童生徒のコミュニケーション能力向上のための取組                       | 4.205 | 0.795 |
| 11 | 12       | 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題への対応                        | 4.192 | 0.807 |
| 12 | 25       | 生徒指導を生かした教育活動の在り方                              | 4.179 | 0.679 |
| 13 | 30       | 児童生徒とのコミュニケーションによる内面理解の方法                      | 4.167 | 0.728 |
| 14 | 11       | 学級・ホームルームのリーダー育成のための取組                         | 4.154 | 0.774 |
| 15 | 14       | 保護者への対応の在り方                                    | 4.128 | 0.812 |
| 16 | 21       | 特別な支援を必要とする児童生徒のケーススタディ                        | 4.103 | 0.799 |
| 17 | 17       | 児童生徒の自尊感情・自己肯定感を高めるための取組                       | 4.090 | 0.856 |
| 18 | 5        | 児童生徒虐待の早期発見・早期対応につながる教員の態<br>度と対応の在り方          | 4.064 | 0.690 |
| 19 | 6        | 人権教育の具体的な進め方                                   | 4.051 | 0.924 |
| 20 | 22       | I C T機器を用いた授業の進め方                              | 4.013 | 1.038 |
| 21 | 20       | キャリア教育の具体的な進め方                                 | 4.000 | 0.721 |
| 22 | 1        | メタ認知（目標や振り返り等）を重視した授業づくり                       | 3.962 | 0.813 |
| 23 | 15       | 言語活動を重視した授業づくり                                 | 3.962 | 0.959 |
| 24 | 16       | 児童生徒との好ましい人間関係づくり                              | 3.962 | 0.904 |
| 25 | 10       | 家庭や地域との連携・協力の在り方                               | 3.949 | 0.737 |
| 26 | 18       | 教育相談のケーススタディ（事例研究）                             | 3.910 | 0.825 |
| 27 | 13       | 総合的な学習の時間の進め方                                  | 3.897 | 0.862 |
| 28 | 2        | L I N E等のネット依存、ゲーム依存等への対応                      | 3.821 | 0.964 |
| 29 | 19       | 教員のコミュニケーション能力向上の方法                            | 3.654 | 1.055 |
| 30 | 7        | 職場での協働の進め方                                     | 3.308 | 1.023 |

表5 高等学校受講者の意識調査結果 (n=51)

| 順位 | 質問<br>番号 | あなたの「教師力」を高めるために、今後、研修講座で、<br>次の内容について学びたいですか。 | 平均値   | 標準偏差  |
|----|----------|--|-------|-------|
| 1  | 9        | 教科における実践的な指導力                                  | 4.647 | 0.627 |
| 2  | 3        | 教科に関する専門的知識・技術                                 | 4.510 | 0.731 |
| 3  | 28       | 学習意欲を高める授業づくり                                  | 4.490 | 0.644 |
| 4  | 8        | 不登校児童生徒への理解と対応の在り方                             | 4.412 | 0.753 |
| 5  | 14       | 保護者への対応の在り方                                    | 4.333 | 0.766 |
| 6  | 24       | 授業構想・授業展開の工夫                                   | 4.255 | 0.821 |
| 7  | 12       | 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題への対応                        | 4.235 | 0.885 |
| 8  | 29       | いじめの早期発見・早期対応につながる教師の態度と対                      | 4.235 | 0.815 |

|       |    |                                   |             |
|-------|----|-----------------------------------|-------------|
| 応の在り方 |    |                                   |             |
| 9     | 23 | 生徒指導のケーススタディ（事例研究）                | 4.216 0.730 |
| 10    | 27 | 学級・ホームルーム集団の仲間意識を育てる取組            | 4.176 0.817 |
| 11    | 4  | 保護者との信頼関係づくり                      | 4.157 0.834 |
| 12    | 2  | LINE等のネット依存、ゲーム依存等への対応            | 4.118 0.887 |
| 13    | 17 | 児童生徒の自尊感情・自己肯定感を高めるための取組          | 4.118 0.909 |
| 14    | 5  | 児童生徒虐待の早期発見・早期対応につながる教員の態度と対応の在り方 | 4.059 0.810 |
| 15    | 18 | 教育相談のケーススタディ（事例研究）                | 4.059 0.881 |
| 16    | 15 | 言語活動を重視した授業づくり                    | 4.020 0.990 |
| 17    | 21 | 特別な支援を必要とする児童生徒のケーススタディ           | 4.000 0.872 |
| 18    | 26 | 児童生徒のコミュニケーション能力向上のための取組          | 4.000 0.825 |
| 19    | 22 | ICT機器を用いた授業の進め方                   | 3.980 1.010 |
| 20    | 30 | 児童生徒とのコミュニケーションによる内面理解の方法         | 3.961 0.894 |
| 21    | 10 | 家庭や地域との連携・協力の在り方                  | 3.941 0.835 |
| 22    | 25 | 生徒指導を生かした教育活動の在り方                 | 3.941 0.810 |
| 23    | 20 | キャリア教育の具体的な進め方                    | 3.922 0.868 |
| 24    | 11 | 学級・ホームルームのリーダー育成のための取組            | 3.824 0.817 |
| 25    | 1  | メタ認知（目標や振り返り等）を重視した授業づくり          | 3.804 0.872 |
| 26    | 16 | 児童生徒との好ましい人間関係づくり                 | 3.765 0.971 |
| 27    | 6  | 人権教育の具体的な進め方                      | 3.686 1.049 |
| 28    | 13 | 総合的な学習の時間の進め方                     | 3.686 0.990 |
| 29    | 19 | 教員のコミュニケーション能力向上の方法               | 3.686 1.010 |
| 30    | 7  | 職場での協働の進め方                        | 3.529 1.065 |

表6 特別支援学校受講者の意識調査結果 (n=33)

| 順位 | 質問番号 | あなたの「教師力」を高めるために、今後、研修講座で、次の内容について学びたいですか。 | 平均値   | 標準偏差  |
|----|------|--|-------|-------|
| 1  | 3    | 教科に関する専門的知識・技術                             | 4.636 | 0.549 |
| 2  | 9    | 教科における実践的な指導力                              | 4.606 | 0.609 |
| 3  | 4    | 保護者との信頼関係づくり                               | 4.545 | 0.506 |
| 4  | 17   | 児童生徒の自尊感情・自己肯定感を高めるための取組                   | 4.545 | 0.564 |
| 5  | 24   | 授業構想・授業展開の工夫                               | 4.424 | 0.663 |
| 6  | 28   | 学習意欲を高める授業づくり                              | 4.394 | 0.556 |
| 7  | 21   | 特別な支援を必要とする児童生徒のケーススタディ                    | 4.333 | 0.692 |
| 8  | 30   | 児童生徒とのコミュニケーションによる内面理解の方法                  | 4.333 | 0.645 |
| 9  | 26   | 児童生徒のコミュニケーション能力向上のための取組                   | 4.303 | 0.585 |
| 10 | 14   | 保護者への対応の在り方                                | 4.273 | 0.626 |
| 11 | 18   | 教育相談のケーススタディ（事例研究）                         | 4.273 | 0.719 |
| 12 | 10   | 家庭や地域との連携・協力の在り方                           | 4.242 | 0.614 |
| 13 | 5    | 児童生徒虐待の早期発見・早期対応につながる教員の態度と対応の在り方          | 4.212 | 0.600 |
| 14 | 12   | 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題への対応                    | 4.182 | 0.683 |
| 15 | 27   | 学級・ホームルーム集団の仲間意識を育てる取組                     | 4.121 | 0.650 |
| 16 | 8    | 不登校児童生徒への理解と対応の在り方                         | 4.061 | 0.704 |
| 17 | 16   | 児童生徒との好ましい人間関係づくり                          | 4.000 | 0.612 |
| 18 | 23   | 生徒指導のケーススタディ（事例研究）                         | 3.970 | 0.810 |
| 19 | 29   | いじめの早期発見・早期対応につながる教師の態度と対応の在り方             | 3.970 | 0.728 |
| 20 | 19   | 教員のコミュニケーション能力向上の方法                        | 3.939 | 0.704 |
| 21 | 25   | 生徒指導を生かした教育活動の在り方                          | 3.939 | 0.659 |

|    |     |                           |       |       |
|----|-----|---------------------------|-------|-------|
| 22 | 7   | 職場での協働の進め方                | 3.879 | 0.740 |
| 23 | 2 2 | I C T機器を用いた授業の進め方         | 3.879 | 0.857 |
| 24 | 2 0 | キャリア教育の具体的な進め方            | 3.848 | 0.712 |
| 25 | 1   | メタ認知（目標や振り返り等）を重視した授業づくり  | 3.758 | 0.902 |
| 26 | 6   | 人権教育の具体的な進め方              | 3.758 | 0.663 |
| 27 | 2   | L I N E等のネット依存、ゲーム依存等への対応 | 3.667 | 0.890 |
| 28 | 1 5 | 言語活動を重視した授業づくり            | 3.667 | 0.816 |
| 29 | 1 1 | 学級・ホームルームのリーダー育成のための取組    | 3.576 | 0.708 |
| 30 | 1 3 | 総合的な学習の時間の進め方             | 3.394 | 0.747 |

## (2) 表3から表6の分析から分かること

全ての校種において、教科の専門性や授業づくりについて学びたいという意識（以下「学びの意識」という。）が高かった。

「不登校児童生徒への理解と対応の在り方」について、小学校、中学校、高等学校の順に、学びの意識の相対的な順位が上がっていく傾向が見られた（14位→6位→4位）。また、「保護者への対応の在り方」について、小学校、中学校、高等学校の順に、学びの意識の相対的な順位が上がっていく傾向が見られた（20位→15位→5位）。

小学校では、「言語活動を重視した授業づくり」、「学級・ホームルームのリーダー育成のための取組」、「総合的な学習の時間の進め方」について他校種に比して学びの意識が高かった。

小学校と特別支援学校では、「児童生徒の自尊感情・自己肯定感を高めるための取組」について、他校種に比して学びの意識が高かった。

中学校と高等学校では、「生徒指導のケーススタディ」への学びの意識が高かった。また、「L I N E等のネットやゲーム依存等への対応」に関しては、高等学校で、比較的学びの意識が高かった。

特別支援学校では、「特別な支援を必要とする児童生徒のケーススタディ」、「児童生徒とのコミュニケーションによる内面理解の方法」、「児童生徒のコミュニケーション能力向上のための取組」について、他校種に比して学びの意識が高かった。

## (3) 因子分析結果について

まず、質問1から質問30の質問項目に対して、主因子法(SMC)による因子分析(注1)を行い、何因子構造となるか目安をつけた。その際、共通性の推定値が著しく低かった4項目(質問1、2、13、22)を分析から除外することを検討した。因子分析によって得られる因子は、教師力の下位概念であり、相互に正の相関が想定されるため、2回目の因子分析は、斜交回転の1つであるプロマックス回転を採用し分析した結果、先述の4項目(質問1、2、13、22)について同様の結果であったため、分析から正式に除外し、主因子法・プロマックス回転による3回目の因子分析を行った。その結果、固有値の変化は、9.45、1.83、1.43、1.28、1.19…というものであり、解釈可能性を検討した結果、5因子構造が妥当であると考えられた。その結果、最終的に、26項目から5因子構造が得られた。プロマックス回転後の最終的な因子パターンと因子間相関を表7に示す。

第1因子は、12項目で構成されており、「児童生徒のコミュニケーション能力向上のための取組」、「学級・ホームルーム集団の仲間意識を育てる取組」など、児童生徒理解や授業づくりなどに意識が向かう内容の項目が高い負荷量を示していたことから、「児童・生徒理解力」因子( $\alpha = .90$ ) (注2)と命名した。第2因子は、5項目で構成されており、「教育相談のケーススタデ

イ」、「生徒指導のケーススタディ」など、事例研究に関する内容の項目が高い負荷量を示していたことから、「様々な事例研究」因子( $\alpha = .78$ )と命名した。第3因子は、4項目で構成されており、「保護者との信頼関係づくり」、「保護者への対応の在り方」など家庭や地域との連携に関する内容の項目が高い負荷量を示していたことから、「保護者や地域との連携」因子( $\alpha = .78$ )と命名した。第4因子は、3項目で構成されており、「教科における実践的な指導力」「教科に関する専門的知識・技術」など教科の専門性に関する内容の項目が高い負荷量を示していたことから、「教科指導力」因子( $\alpha = .82$ )と命名した。第5因子は、2項目で構成されており、「教員のコミュニケーション能力向上の方法」「職場での協働の進め方」など教師のコミュニケーションに関する内容の項目が高い負荷量を示していたことから、「コミュニケーション能力」因子( $\alpha = .67$ )と命名した。

表7 受講者の学びの意識尺度の因子分析結果 (Promax回転後因子パターン)

|                                     | I          | II         | III        | IV         | V          |     |
|-------------------------------------|------------|------------|------------|------------|------------|-----|
| 26 児童生徒のコミュニケーション能力向上のための取組         | <b>.85</b> | .01        | -.27       | -.08       | .08        |     |
| 27 学級・ホームルーム集団の仲間意識を育てる取組           | <b>.85</b> | -.07       | -.07       | -.02       | -.04       |     |
| 25 生徒指導を生かした教育活動の在り方                | <b>.74</b> | .03        | .01        | -.03       | -.01       |     |
| 28 学習意欲を高める授業づくり                    | <b>.68</b> | -.24       | .07        | .31        | -.15       |     |
| 11 学級・ホームルームのリーダー育成のための取組           | <b>.68</b> | .01        | -.12       | -.05       | .03        |     |
| 30 児童生徒とのコミュニケーションによる内面理解の方法        | <b>.66</b> | -.04       | .13        | -.08       | .07        |     |
| 17 児童生徒の自尊感情・自己肯定感を高めるための取組         | <b>.61</b> | -.12       | .06        | -.06       | .10        |     |
| 29 いじめの早期発見・早期対応につながる教師の態度と対応の在り方   | <b>.56</b> | .18        | .24        | -.05       | -.20       |     |
| 15 言語活動を重視した授業づくり                   | <b>.55</b> | .03        | -.24       | .16        | .14        |     |
| 12 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題への対応          | <b>.46</b> | .21        | .11        | -.12       | -.08       |     |
| 6 人権教育の具体的な進め方                      | <b>.46</b> | .21        | .03        | .01        | -.04       |     |
| 16 児童生徒との好ましい人間関係づくり                | <b>.34</b> | -.04       | .23        | .00        | .29        |     |
| 18 教育相談のケーススタディ(事例研究)               | -.20       | <b>.83</b> | -.06       | .01        | .14        |     |
| 23 生徒指導のケーススタディ(事例研究)               | .10        | <b>.75</b> | .00        | -.09       | -.08       |     |
| 21 特別な支援を必要とする児童生徒のケーススタディ          | .08        | <b>.66</b> | -.05       | .11        | -.09       |     |
| 20 キャリア教育の具体的な進め方                   | .12        | <b>.40</b> | -.16       | .07        | .26        |     |
| 8 不登校児童生徒への理解と対応の在り方                | .22        | <b>.34</b> | .13        | .05        | -.09       |     |
| 4 保護者との信頼関係づくり                      | -.10       | -.18       | <b>.99</b> | .02        | .02        |     |
| 14 保護者への対応の在り方                      | -.20       | .16        | <b>.75</b> | -.02       | .12        |     |
| 10 家庭や地域との連携・協力の在り方                 | .24        | .00        | <b>.37</b> | .02        | .18        |     |
| 5 児童生徒虐待の早期発見・早期対応につながる教員の態度と対応の在り方 | .14        | .18        | <b>.30</b> | .15        | -.02       |     |
| 9 教科における実践的な指導力                     | -.16       | .02        | .06        | <b>.89</b> | -.06       |     |
| 3 教科に関する専門的知識・技術                    | -.01       | .00        | .00        | <b>.76</b> | -.04       |     |
| 24 授業構想・授業展開の工夫                     | .06        | .04        | -.06       | <b>.64</b> | .14        |     |
| 19 教員のコミュニケーション能力向上の方法              | -.02       | .02        | .05        | .01        | <b>.77</b> |     |
| 7 職場での協働の進め方                        | .06        | -.02       | .13        | -.06       | <b>.54</b> |     |
|                                     | 因子間相関      | I          | II         | III        | IV         | V   |
| I 「児童・生徒理解力」                        | I          | —          | .74        | .68        | .55        | .48 |
| II 「様々な事例研究」                        | II         | .74        | —          | .60        | .46        | .49 |
| III 「保護者や地域との連携」                    | III        | .68        | .60        | —          | .34        | .44 |
| IV 「教科指導力」                          | IV         | .55        | .46        | .34        | —          | .30 |
| V 「コミュニケーション能力」                     | V          | .48        | .49        | .44        | .30        | —   |



#### (4) 多元配置分散分析 (注3) 結果について

次に、校種ごとに、各因子の項目の素点を単純に合計し、(以下「単純因子合計得点」という。)校種間の多元配置分散分析を実施したが、第1因子から第5因子いずれの項目においても有意な差は見られなかった。そこで、因子間の比較ではなく、質問1から質問30までの全ての質問項目について同様に分散分析を実施した。その結果、質問6、7、11、13、15、17、18、20、27の各項目に、特定の校種間において有意な差が見られた。その分析結果を次に示す。

表8 校種間に有意な差 (注5) のあった9項目

| 質問番号 | 項目                       | P値     | 小中     | P値     | 小高     | P値     | 小特 | P値     | 中高     | P値     | 中特 | P値 | 高特 |
|------|--------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|----|--------|--------|--------|----|----|----|
| 6    | 人権教育の具体的な進め方             |        |        | 0.0118 | *      |        |    | 0.0395 | *      |        |    |    |    |
| 7    | 職場での協働の進め方               |        |        |        |        |        |    |        |        | 0.0282 | *  |    |    |
| 11   | 学級・ホームルームのリーダー育成のための取組   |        | 0.0099 | **     | 0.0001 | **     |    |        | 0.0023 | **     |    |    |    |
| 13   | 総合的な学習の時間の進め方            |        | 0.0024 | **     | 0.0000 | **     |    |        | 0.0262 | *      |    |    |    |
| 15   | 言語活動を重視した授業づくり           | 0.0059 | **     |        |        | 0.0001 | ** |        |        |        |    |    |    |
| 17   | 児童生徒の自尊感情・自己肯定感を高めるための取組 | 0.0436 | *      |        |        |        |    |        | 0.0257 | *      |    |    |    |
| 18   | 教育相談のケーススタディ(事例研究)       |        |        |        |        | 0.0435 | *  |        |        |        |    |    |    |
| 20   | キャリア教育の具体的な進め方           | 0.0381 | *      |        |        |        |    |        |        |        |    |    |    |
| 27   | 学級・ホームルーム集団の仲間意識を育てる取組   |        | 0.0260 | *      | 0.0288 | *      |    |        |        |        |    |    |    |

\*\*p<.01 \*p<.05

表8は、多重比較の結果、有意と判定された項目のみを抜粋している。(例えば、高等学校と特別支援学校は、有意と判定された項目がないため、p値は空欄としてある。) p値を含めたより詳しい分析結果は、図2から図10に示している。図中のSD (Standard Deviation) は標準偏差、SE (Standard Error) は標準誤差 (注4) の略称である。

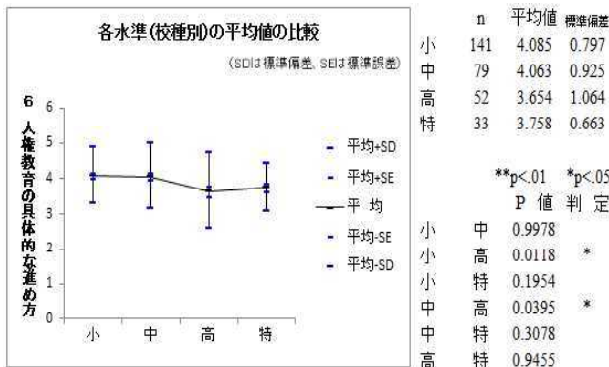


図2 「6 人権教育の具体的な進め方」

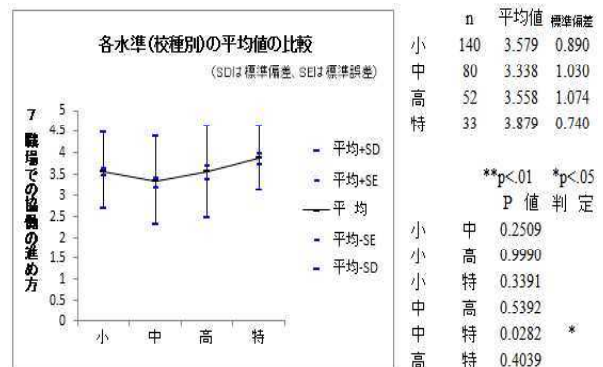


図3 「7 職場での協働の進め方」

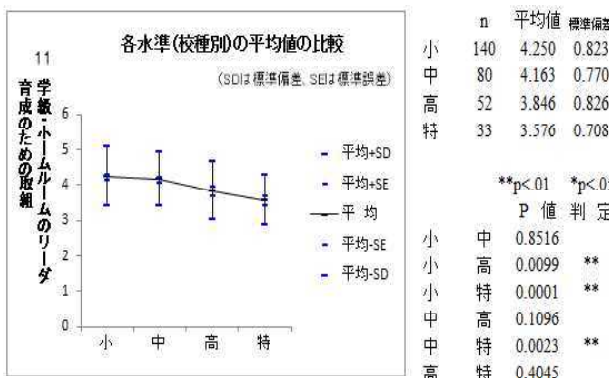


図4 「11 学級リーダー育成のための取組」

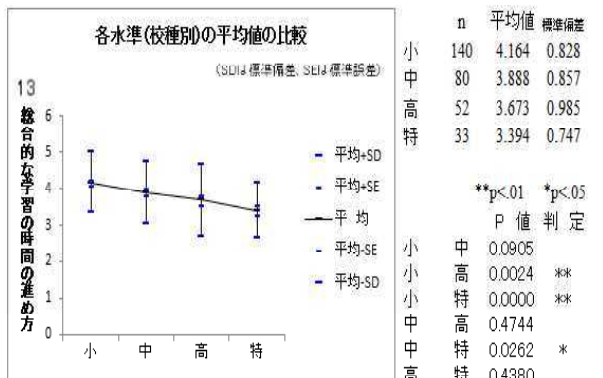


図5 「13 総合的な学習の時間の進め方」

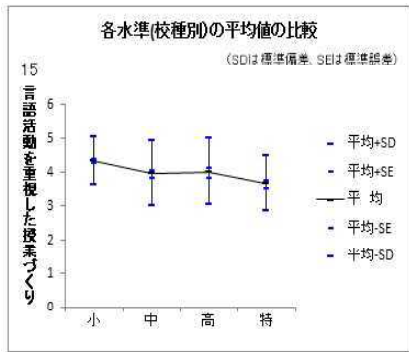


図6 「15 言語活動を重視した授業づくり」

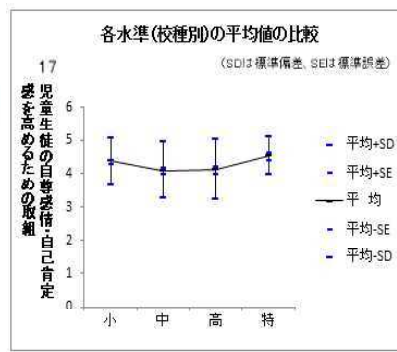


図7 「17 自尊感情・自己肯定感を高める取組」

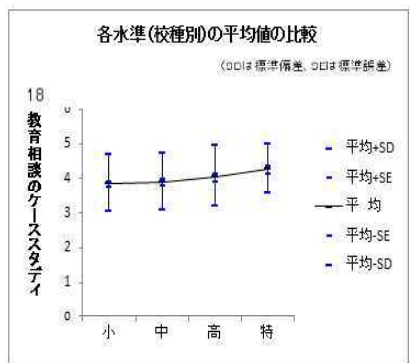


図8 「18 教育相談のケーススタディ」

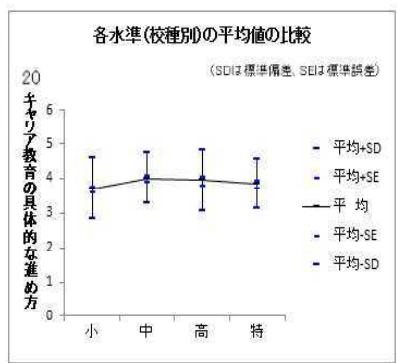


図9 「20 キャリア教育の具体的な進め方」

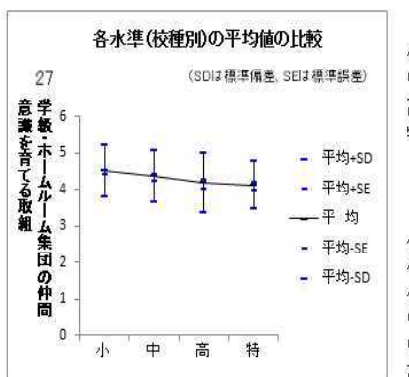


図10 「27 学級・HR集団の仲間意識を育てる取組」

### (5) 多元配置分散分析から分かること

小学校は、「人権教育の具体的な進め方」、「学級・ホームルームのリーダー育成のための取組」、「総合的な学習の時間の進め方」、「言語活動を重視した授業づくり」、「児童生徒の自尊感情・自己肯定感を高めるための取組」、「学級・ホームルーム集団の仲間意識を育てる取組」について、中学校、高等学校、特別支援学校のいずれかの校種に比して学びの意識が有意に高かった(図2、図4、図5、図6、図7、図10参照)。

中学校は、「人権教育の具体的な進め方」について、高等学校より学びの意識が有意に高かった。また、「キャリア教育の具体的な進め方」について、小学校より学びの意識が有意に高かった。更に、「総合的な学習の時間の進め方」について、特別支援学校より学びの意識が有意に高かった(図2、図9、図5参照)。

高等学校は、他校種と比較して、学びの意識が有意に高い項目はなかった。

特別支援学校は、「職場での協働の進め方」について、中学校より学びの意識が有意に高かった。また、「児童生徒の自尊感情・自己肯定感を高めるための取組」について、中学校より学びの意識が有意に高かった。更に、「教育相談のケーススタディ（事例研究）」について、小学校より学びの意識が有意に高かった（図3、図7、図8参照）。

## (6) 初任者の学びの意識の特徴について

初任者が、次年度以降に学びたいと考えている内容うち、最も意識の高いものは、「教科に関する専門的な知識・技術」や「教科における実践的な指導力」である（表3～表6参照）。また、因子分析の結果から、授業づくりは、児童生徒理解に密接に関係しており、学級（ホームルーム）経営等で仲間づくりを進めていくことや、児童生徒の自己肯定感を高めていく等の取組に高い学びの意識をもつ初任者は、授業づくりにも高い学びの意識をもつ傾向にあることが分った（表7参照）。そこで因子分析により得られた5因子の単純因子合計得点を元に、階層的クラスター分析（ウォード法）<sup>（注6）</sup>の手法を用い、樹形図（図11及び図12）を作成した。これを見ると、「児童・生徒理解力」は、「教科指導力」と近い関係にあり、「保護者や地域との連携」は、教員の「コミュニケーション能力」と更に近い関係にあることが分かる。また、小学校の意識は中学校の意識に比較的近く、高等学校の意識は、特別支援学校の意識にやや近い構造であるといえる。

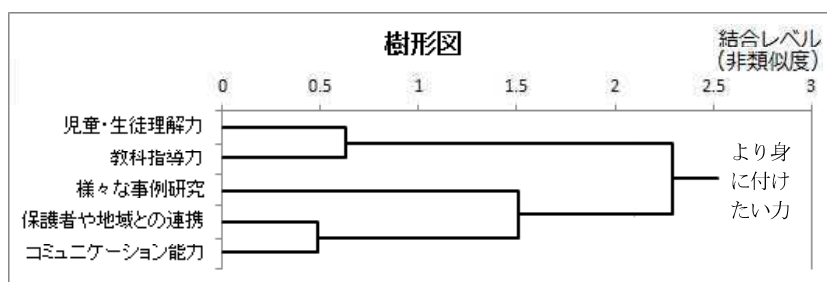


図11 学びの意識階層

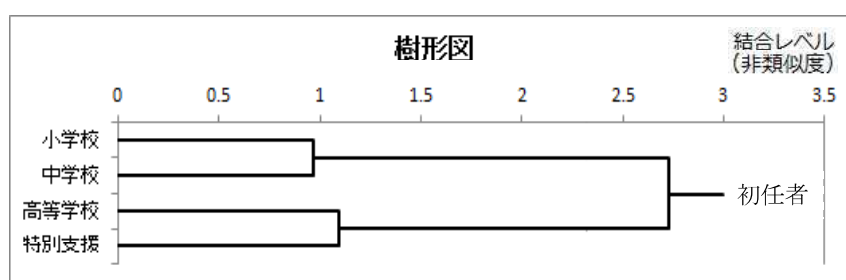


図12 校種別の意識階層

## (7) 記述部分の質的分析について

### ア 児童生徒理解に関する悩み

意識調査の質問紙の中に、教師力に関して、自由記述する項目を設けた。この内、「児童生徒理解」に関して、「現在、『児童生徒理解』について、悩んでいることや困っていることがあれば、記述してください。」との項目で回答を求めた。その結果、記述した初任者は、305名中141名（内訳は、小学校 n=69、中学校 n=34、高等学校 n=20、特別支援学校 n=18）であった。記述された内容をカテゴリー化したところ、「児童生徒との関係」、「支援を必要とする児

童への対応」、「授業づくり」、「生徒間の人間関係」、「カウンセリング」、「その他」の6つに分類することができた。

校種別に見ると、小学校では、発達課題等の支援が必要な児童への対応、一人一人の児童への指導の仕方、問題を抱える児童への対応に関する記述が多かった。中学校では、生徒の内面理解の方策や個別の悩みへの対応、思春期の生徒への対応、コミュニケーションのとり方等に関する記述が多かった。

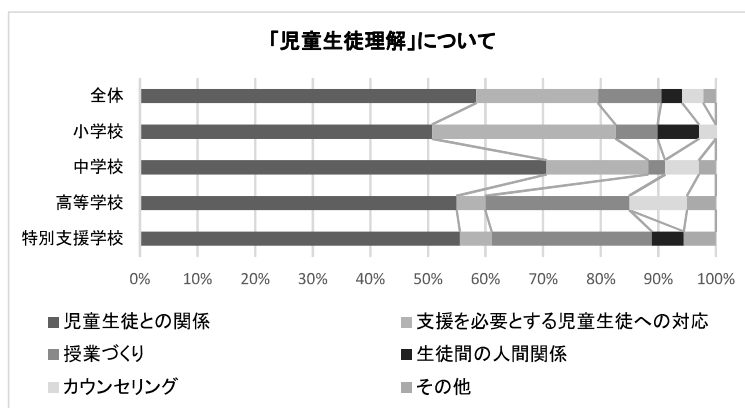


図13 「児童生徒理解」に関する悩みの記述の割合

高等学校では、生徒のやる気を引き出す方法、生徒との距離感（コミュニケーション）のとり方、生徒の内面理解の方策や個別の悩みへの対応に関する記述が目立った。特別支援学校では、児童生徒の内面理解の難しさ、他の教員とのコミュニケーション不足等の記述が目立った。また、図13を見ると、小学校、中学校は、「支援を必要とする児童生徒への対応」に関する悩みの割合が高く、高等学校、特別支援学校は、「授業づくり」に関する悩みの割合が高く、小学校、特別支援学校は、「生徒間の人間関係」に関する悩みの割合が高いことが分かった。

### イ 教科指導に関する悩み

先述と同様に、「現在、『教科指導』について、悩んでいることや困っていることがあれば、記述してください。」との項目で回答を求めた。その結果、悩みを記述した初任者は、305名中170名（内訳は、小学校 n=76、中学校 n=40、高等学校 n=30、特別支援学校 n=23）であった。記述された内容をカテゴリー化したところ、「授業展開」、「教科専門性」、「教材研究の時間」、「学級クラス内の学力差」、「同僚との連携」、「児童生徒の評価」、「その他」の7つに分類することができた。

小学校では、教科の専門性の不足、教材研究の仕方、授業づくり、指導の方法、教材研究にかける時間が取れないこと、道徳の具体的な進め方、各教科の進め方等、困り感が非常に多く記述されていた。中学校では、様々な学力の生徒に合わせた授業展開の仕方や指導の工夫、教材研究に時間がとれないこと、視聴覚教材やICTの活用の仕方等、教材研究の必要性を意識する記述が目立った。高等学校では、教科の専門性の向上、授業展開の仕方、学習意欲を高める指導の工夫、教材研究に時間が取れないことに関する記述が目立った。特別支援学校では、教材研究や授業づくりの時間がなかなか確保できないこと、発達年齢に違いがある中での授業づくり、様々な発達課題をもつ児童生徒への指導、専門教科以外の教科指導の進め方に関する記述が目立った。

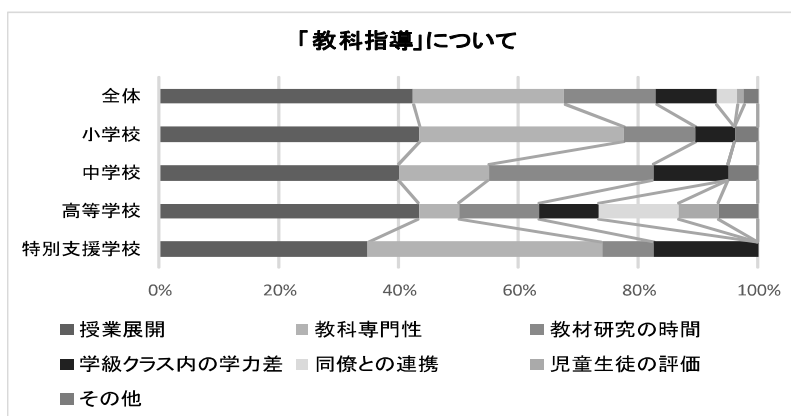


図14 「教科指導」に関する悩みの記述の割合

また、図14を見ると、小学校、特別支援学校は、教科専門性に関する悩みの割合が高く、中学

校は教材研究の時間に関する悩みの割合が高く、高等学校は同僚との連携に関する悩みの割合が高いことが分かった。

### ウ コミュニケーションに関する悩み

先述と同様に、「現在、『コミュニケーション』について、悩んでいることや困っていることがあれば、記述してください。」との項目で回答を求めた。その結果、悩みを記述した初任者は、305名中111名（内訳は、小学校 n=41、中学校 n=30、高等学校 n=23、特別支援学校 n=17）であった。記述された内容をカテゴリー化したところ、「対児童生徒」、「対保護者」、「対同僚」、「その他」の4つに分類することができた。

小学校では、様々な児童とのコミュニケーションのとり方、他の先輩教員とのコミュニケーション不足、保護者との信頼関係づくりやコミュニケーションのとり方、児童への叱り方等、対子ども、対同僚、対保護者という3つのコミュニケーション不足に悩んでいる記述が多くあった。中学校や高等学校でも同様に、「対生徒」、「対同僚」、「対保護者」という3つのコミュニケーション不足に悩んでいる記述が目立った。生徒への適切な接し方がわからない、同僚と考え方が合わない、保護者の信頼を得られない等、個別ケースへの具体的な対応の仕方がわからないという記述が目立った。特別支援学校では、「対同僚」や「対保護者」とのコミュニケーションのとり方に悩む記述が目立った。

児童や生徒との言葉によらないコミュニケーションのとり方に悩む記述も見受けられた。

また、図15を見ると、小学校、中学校、高等学校の順で、対児童生徒に関する悩みの割合が低くなっていることが分かった。他のカテゴリーについては、校種間の差はほとんどなかった。

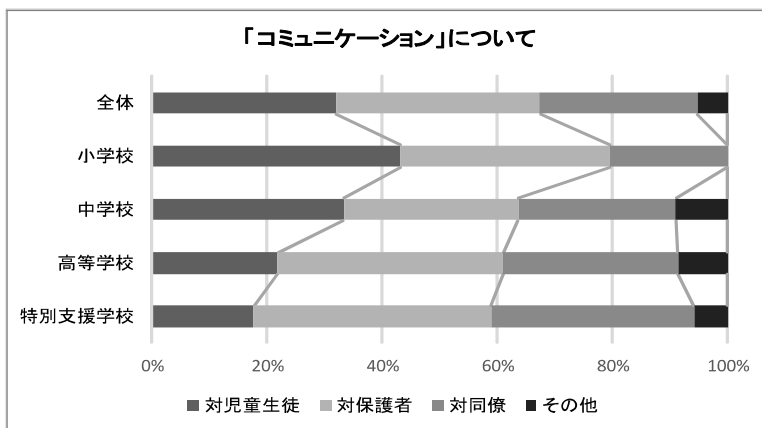


図15 「コミュニケーション」に関する悩みの記述の割合

## 6 おわりに

本研究は、意識調査結果の分析を通して、初任者の学びの意識の特徴や、校種による悩みの特徴を明らかにした。その結果、得られた5つの因子である「児童・生徒理解力」、「様々な事例研究」、「保護者や地域との連携」、「教科指導力」、「コミュニケーション能力」を踏まえた研修講座を企画し、その内容の充実を図っていくことが、2年目以降の教員の教師力を高める重要な要因であるということが分かった。また、図12から、小学校と中学校の連携という視点で研修内容の編成を進めていくことが、教師力を高める方策の一つになるということが示唆された。また、記述による質的分析を通して、初任者が現在抱える教育活動上の悩みは、量的解析結果を裏付けるものであり、児童生徒の成長とともに、その悩みの質は、徐々に変容していくということが分かった。

本研究により、前年度の研究課題であった「教師力を高める上で有効となる方策について、研究を継続していきたい。」という点に、具体的な方向性を与えることができた。今後、若手教員の占める割合は一層高まることから、悩みをもつ2年目以降の教員に対して、個別の問題解決を

図るためにも、教員のニーズに沿った研修プログラムをより充実させることが、今後の重要な課題であると言えよう。

(注1) 因子分析とは、複数変数の変数相互の関係から、潜在的なファクター（因子）を求める手法である。項目間の相関係数をもとに、複数の変数のうち相関が強いものに共通する基準を探し出す分析手法のことをいう。ここでは、30の質問項目の回答の奥に潜む要因をまとめるために、因子分析を行っている。

(注2)  $\alpha$  は、クロンバックの $\alpha$ 係数を表す。各変数が全体として同じ概念や対象を測定したかどうか（内的整合性）を評価する信頼係数。1に近いほど信頼性が高いと言える。

(注3) 分散分析とは複数（通常3以上）のグループ間で平均値を比較するための手法のことをいう。ここでは、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の4校種の意識の平均点に差があるかどうかを調べている。

(注4) 標準偏差（SD）は、データのばらつきを示しており、標準誤差（SE）は、母平均の区間推定量を示している。

(注5) 統計的仮説検定を行う場合に、帰無仮説を棄却するために、あらかじめ決めた確率水準。5%あるいは1%がよく使用される。有意水準5%で検定を行うということは、第1種の過誤をおかす危険率が5%であることを意味する。すなわち、同様の調査・検定を行うと、20回に1回は得られた結論が誤っていることを表す。今回は、5%と1%の両方の結果を示した。

(注6) 最も似ている組み合わせから順番にまとまり（クラスター）にしていく方法で、途中過程が階層のように表せ、最終的に樹形図（デンドログラム）が作成できる。2つのクラスターを併合する際に、クラスター内の平方和の増分を最小にするようにクラスターを併合していく。他の手法に比べて比較的安定した解が得られる。

## 参考・引用文献

- (1) 山内雅雄ら（2014）「若手教員が必要とする教師力に関する一考察—新規採用教員の意識調査から—」『平成25年度研究紀要・研究集録』奈良県立教育研究所  
[http://www.nps.ed.jp/nara-c/gakushi/kiyou/h25/kiyou2\\_H25.pdf](http://www.nps.ed.jp/nara-c/gakushi/kiyou/h25/kiyou2_H25.pdf)
- (2) 稲田進彦ら（2007）「初任者研修対象教員に対する意識調査に関する一考察」『平成18年度研究紀要』和歌山県教育センター学びの丘
- (3) 岡本育夫ら（2008）「義務教育諸学校における『初任者』の指導力向上に関する研究」『平成19年度研究紀要第118集』兵庫県立教育研修所
- (4) 「「授業力」自己診断シートで授業力の向上を！」（2013.3）埼玉県立総合教育センター